

インターハイ 男子円盤投げ 小宮路(生光 学園)が優勝



小宮路大隼

北信越5県と和歌山県を
会場とする全国高校総合体
育大会(インターハイ)第
8日は1日、福井市の福井
県営陸上競技場などで行わ

れ、陸上の男子円盤投げで、
生光学園高3年の小宮路大
隼(17)が50.94を投げて優
勝した。県勢が同種目を制
したのは、2015年の幸
長慎一(四国大大学院、生
光学園高→四国大)以来、
6年ぶり3度目。
(21面に関連記事)
小宮路は予選1投目に46

.94をマークし、2位で決
勝(12人)に進出。2投目
の47.66で3位につけ、8
人で争う4投目以降に進ん
だ。4投目で0.65の記録
を伸ばすと、5投目に50.94
を投げて逆転した。
(須見千次郎)

【紙面編集】湯浅欣吾

小宮路 風味方に逆転



男子円盤投げ決勝 50.94を投げて優勝した生光学園の小宮路＝福井県陸上競技場

(立花善晴撮影)

2年時は記録が伸び悩むシーズンに陥っていただけに、表彰台はひびきりの笑顔を仲間にも振りまいた。次の目標は団体で18日本選手権。1台口路から風を助けられた。今度は風なしで50以上を投げて優勝したい。早くも新たな目標を掲げ、ステップアップを誓った。(須貝千次郎)

神戸市の押部谷中で投てき競技を始めた。3年時に円盤投げでジュニアオリンピック、砲丸投げで全国中学校体育大会に出場したが、予選落ちで決勝には届かなかった。陸上部の監督の勧めもあって生光学園に進学し、林監督の指導のもと着実に力を付けてきた。

決勝のフィールドに立ち、気持ちが高ぶっていた。無口で物静かな男には珍しく、3投目までは投げ続けるのに、4投目からは「力みきっていた」と4投目から修正し、掛け声をやめて体の力を抜くことで好成績につなげた。

強い向かい風が吹き、円盤投げには絶好の条件。5投目は円盤を離す際、強く振り抜いて回転をかけるのを意識した。持ち前の早い回転から放たれた円盤は、中央からやや左前方を上向きに伸び上がり、50メートルを越えて澄々、会場から大きな拍手が起きた。

残り2投の終盤に逆転した。男子円盤投げの小宮路(生光学園)は、今季の高校ランク1位に相対する50.94で優勝。男子学校対抗のフィールド部門で生光学園に2度目の優勝をもたらす立役者となった。1年時に出した自己記録48.64を大舞台で更新したこともあり、「うれしい一言、やっとベストが出せた」とこれまでの道のりを振り返りながら喜びに浸った。

福井市の県陸上競技場で1日行われた全国高校総合体育大会第8日(インターハイ)の陸上で、小宮路大輔(生光学園)が男子円盤投げを制した。生光学園は、7月28日の男子ハンマー投げで2位に入った吉田匠と3位高野翼のポイント合わせ、フィールド部門の男子学校対抗で東海大御津(静岡)と並んで優勝した。同校の優勝は6年ぶり2度目で、男子総合でも3位に入った。総合1位は男子が洛南(京都)、女子は中野大中央(愛知)だった。(1面参照)

全国高校総体
 北信越
 第8日

フィールド部門
 男子学校対抗
 生光学園2度目V

50メートル越え大舞台で自己新

陸上
 男子円盤投げ
 ①小宮路(生光学園) 50.94
 ②大野(東海大御津) 48.64
 ③吉田(東海大御津) 48.64
 ④高野(東海大御津) 48.64
 ⑤田中(東海大御津) 48.64
 ⑥山崎(東海大御津) 48.64
 ⑦山崎(東海大御津) 48.64
 ⑧山崎(東海大御津) 48.64
 ⑨山崎(東海大御津) 48.64
 ⑩山崎(東海大御津) 48.64